

## 着任挨拶

**花里 信彦** 国際協力機構 (JICA)、企画部参事役 (国際科学技術協力室参事役、企画部総合企画課長兼務) 客員教授 (2009年4月2日～2010年3月31日)



土木技師からスタートした大学卒業後の人生は、25年前の西サモアへの派遣 (青年海外協力隊) が転機となり、JICAをはじめ、国連、外務省での業務を通じ海外で様々な経験を重ねるうちに開発/途上国支援一本やりの人生になってしまいました。今までの海外経験は14年を超えます。そんな世界から一歩外に出て、2008年1年間名古屋大学でGCOEの国際化を担当させていただきました。そのときに手がけた大学のネットワーク化と大学が持つ知的資産の国際協力への活用を推進するための研究が今回のTOR (terms of reference) です。新たな可能性をODAにもたらすのは大学しかありません。わが国の大学が培ってきた高度な知と経験を国際協力に効果的に活かすためのシステムを創るために、自らの経験を余すことなく活用し役立てたいと思っています。

**略歴** 1959年生れ。熱帯衛生工学修士:英国リーズ大学大学院 専門:途上地域開発、開発援助論  
1982年学部卒業後2年間の民間会社での勤務を経て1984年にJOCV参加 (西サモア国土木施工隊員)。その後UNVに参加 (クック諸島上級土木技師)。英国留学後、JICA Jr. 専門員 (熱帯衛生工学) に採用 (2年間はプロジェクト専門家としてインドネシア勤務)。1995年旧国際協力事業団 (JICA) 入団後、無償資金協力調査部、インドネシア事務所、外務省経済協力局開発協力課課長補佐を歴任。2002年にJICA復職後、企画・評価部企画課長代理、総合企画チーム長を経てインドネシア事務所次長。2008年1月より名古屋大学に外向 (GCOE特任教授)。2008年12月からJICAに復帰し現職。

## 離任挨拶

**櫻井 武司** 和光大学経済経営学部 教授 客員教授 (2008年4月2日～2009年3月31日)



「アフリカ農業・農村開発のための実践的戦略の構築に関する研究」という非常に挑戦しがいのある研究テーマをいただき、1年間取り組んできました。アフリカの農業・農村開発を持続的なものにするためには、遠回りに見えますが、アフリカの農業研究機関の能力を高める必要があります。それには博士号を持つ農業研究者をアフリカで養成することが不可欠であることから、「日本アフリカ農業教育研究センター」構想を立案しました。この構想は、とりわけ稲作に関する研究に焦点をあてています。というのも、コメを増産することはアフリカ農業のもっとも重要な課題の一つだからです。

## オープンセミナー (2009年3月)

回数	日時	テーマ	講師	所属
2008年度 8回	3月24日	ケニアの開発課題解決に向けた ジョモケニヤッタ農工大学の研究活動 —日本の大学との連携の可能性—	エスター・ カハンギ 氏	ジョモケニヤッタ農工大学副学長・教授 (ケニア)
		アフリカ農業・農村開発のための 実践的戦略について：稲作を中心に	櫻井 武司 氏	和光大学 経済経営学部 教授 農学国際教育協力研究センター客員教授

## オープンセミナー (2009年4月～2009年7月)

回数	日時	テーマ	講師	所属
2009年度 1回	5月20日	ササゲの <i>Striga gesnerioides</i> 抵抗性育種に 利用可能な適切な遺伝子資源の同定	村中 聡 氏	国際熱帯農業研究所 (IITA) 研究員 (ナイジェリア)
2回	5月27日	挿し木法を用いたヤムイモの大量増殖システム の開発と西アフリカにおける普及について	菊野日出彦 氏	国際熱帯農業研究所 (IITA) 研究員 (ナイジェリア)
3回	7月17日	節水栽培に適したイネ育種素材の育成 —IRRI 日本共同研究プロジェクト—	小林 伸哉 氏	国際稲研究所 (IRRI) 研究員 (フィリピン)